

(吉澤マネジメント推進係長説明)

今の進め方に関係する部分ということで、公共施設マネジメントについても、説明をさせていただきます。

こちらは昨年度改定を行いました公共施設等総合管理計画の改訂版の概要です。そもそも公共施設マネジメントという言葉ですが、自治体が保有する全ての公共施設を、自治体経営の視点から総合的かつ継続的に企画し、管理運営を活用する仕組みのことで現在全国的に取り組まれている行政課題です。

これは全国的な傾向ですけれども、先ほど学校の築年数が出ておりましたが、小諸市の公共施設につきましても多くの公共施設が昭和 50 年代前後に整備をされたものが多い状況でありまして、老朽化が進んで施設の更新需要が高まっている状況でございます。

一方で、今後の人口減少、少子高齢化の進行などにより、自治体の財政規模は縮小が見込まれ、必要な公共施設に求められる機能に変化をしていく。また施設の全体的な量が多すぎるといった問題も顕在化してきております。こういった社会環境の変化や地域特性に応じた適正な公共サービスの提供等、安定した財政運営を将来にわたって持続可能なものとするため公共施設マネジメントの取り組みが全国的に求められている状況でございます。

国からの指導もあり、全国で策定されているのが先ほど申し上げた総合管理計画になります。この中で小諸市の今後の方向性や、取り組み内容の更新を示しています。小諸市の公共施設マネジメントの考え方として、今まで公共施設を話題にする場合はハード面の建物をどうするかという議論に終始しがちでしたけれども、そういったハードだけではなく、ソフト面でどうやって運用していくのか、維持管理の部分、また設備そもそもの機能の必要性といったことを議論していく中では、公共施設そのものではなくて、その公共施設が提供する公共サービスをどうやって提供していくのかといった観点から、公共施設マネジメントを行っていくべきだろうというのが基本的な考え方でございます。

それに基づきまして、公共施設等総合管理計画を令和 3 年度末に取りまとめました。当初は平成 28 年度に策定をしておりまして、令和 3 年度に改定をしたというものでございます。

字が小さくて恐縮ですけれども、この左側の方にある通り 8 章立ての構成になっておりまして、1 章、2 章は全体的な計画の位置づけになっています。

第3章がマクロ的な傾向の把握ということで、学校だけでなく市全体の公共施設の状態の把握をしております。この中で、今後の更新費用と現在の財政予算規模を照らし合わせると、とても更新費用を賄っていくことが難しいという数字が出ておりますので、今後公共施設全体の総量を削減していく必要があるということになる部分でございます。

続いて4章、5章はミクロ把握ということで行っておりまして、それぞれの施設について利用者状況や運営する上でのコストがどうかといったことを明確化しまして今後必要性、効率性といったものの材料とする部分にしております。

続いての6章ですが、一般的な他の自治体では、公共施設等総合管理計画にこういったものを載せませんが、小諸市としましては、ちょうどタイミング的に学校再編を進めており、小中学校は小諸の公共施設の中で一番大きい規模の公共施設になるので、連携して進めていくという中で、あえて公共施設等総合管理計画の中にも、学校再編を第6章に載せています。

最後7章、8章が方針と今後の取り組み内容ということで、一番重要な部分は第7章の公共施設に関する基本方針で、三つであります。一つ目は将来の地域変化に対応した施設の再編や公共サービスの見直しを行います。二つ目は施設重視から機能重視の視点で、単独での施設更新および新規整備は行いません。三つ目は既存施設への集約化、複合化、機能のアウトソーシングより規模の最適化を図りますということです。

公共施設全体の総量を削減していく方向性の中で、複合化や集約化、またそもそも必要ないものを廃止していくことで削減を進めていくことを示しているものです。

学校の再編の中で、必要な施設を集約化、複合化する検討をすることは学校再編に合わせて、住民サービスに必要な機能を集約化、複合化していくことで、学校地域の拠点として整備していくとともに、公共施設全体としての総量削減を目指していく。

小諸市としては総合管理計画の中で示して、教育委員会だけの考えでなく、市全体の問題、課題として学校再編の取り組みに当たっていくことを公共施設等総合管理計画の中でも示しています。

駆け足ですが公共施設マネジメントの説明となります。